

富山県における 湛水直播栽培の現状と課題



カルパー



鉄コーティング



リゾケア

富山県農業技術課広域普及指導センター
所長 野村幹雄

本日の内容

- 1 富山県における直播栽培の現状
- 2 湛水直播栽培の普及拡大に向けた
これまでの取組み
- 3 今後の取組方向

1 富山県における直播栽培の現状

直播面積 R7 : 3,360ha (水稻面積の約9%)
近年は3,000ha強で推移

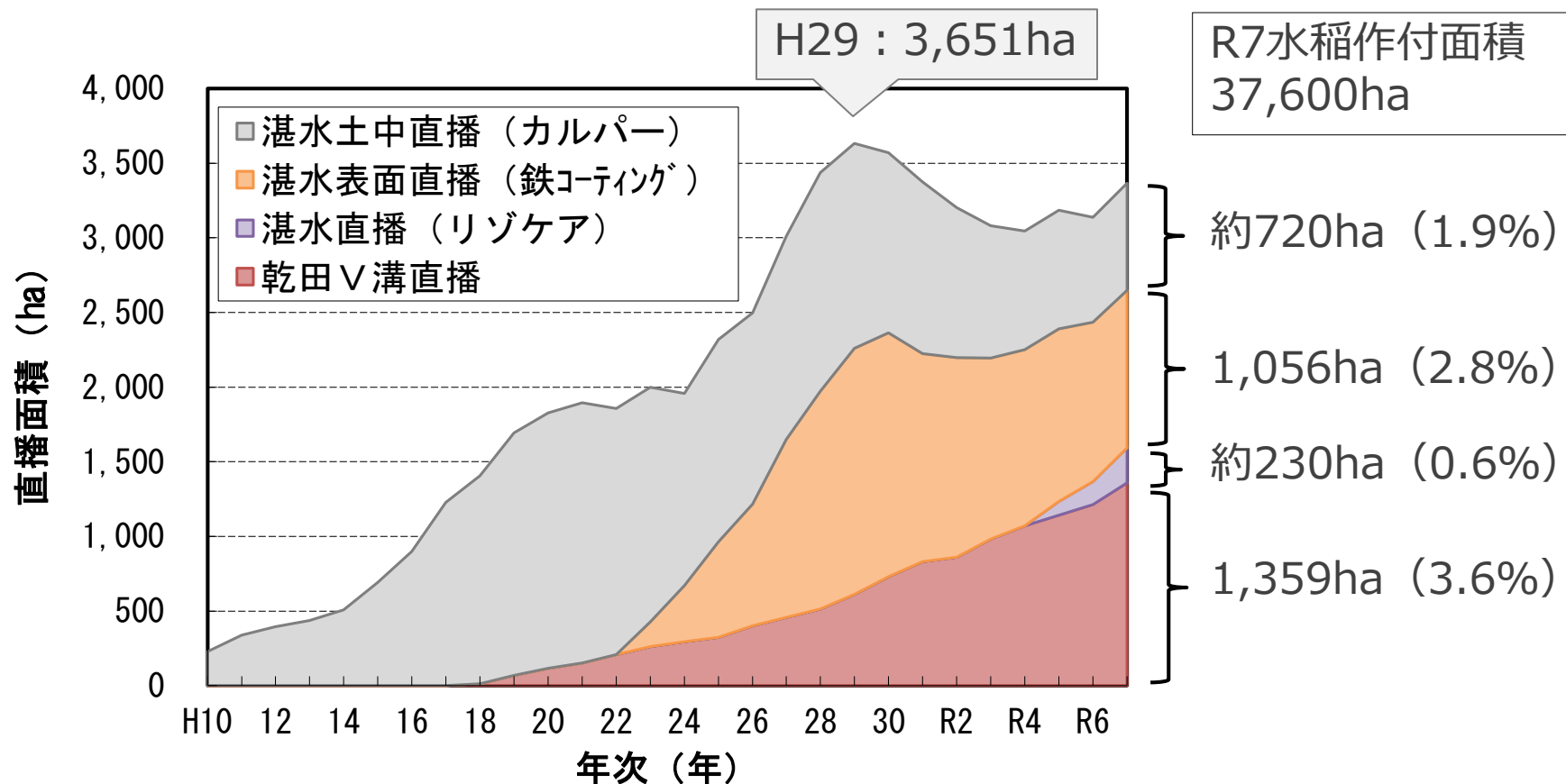


図 直播栽培面積の推移

1 富山県における直播栽培の現状

湛水直播面積 R7：約2,000ha（水稻の約5%）
H29（3,026ha）をピークに減少していたが、
近年は横ばい

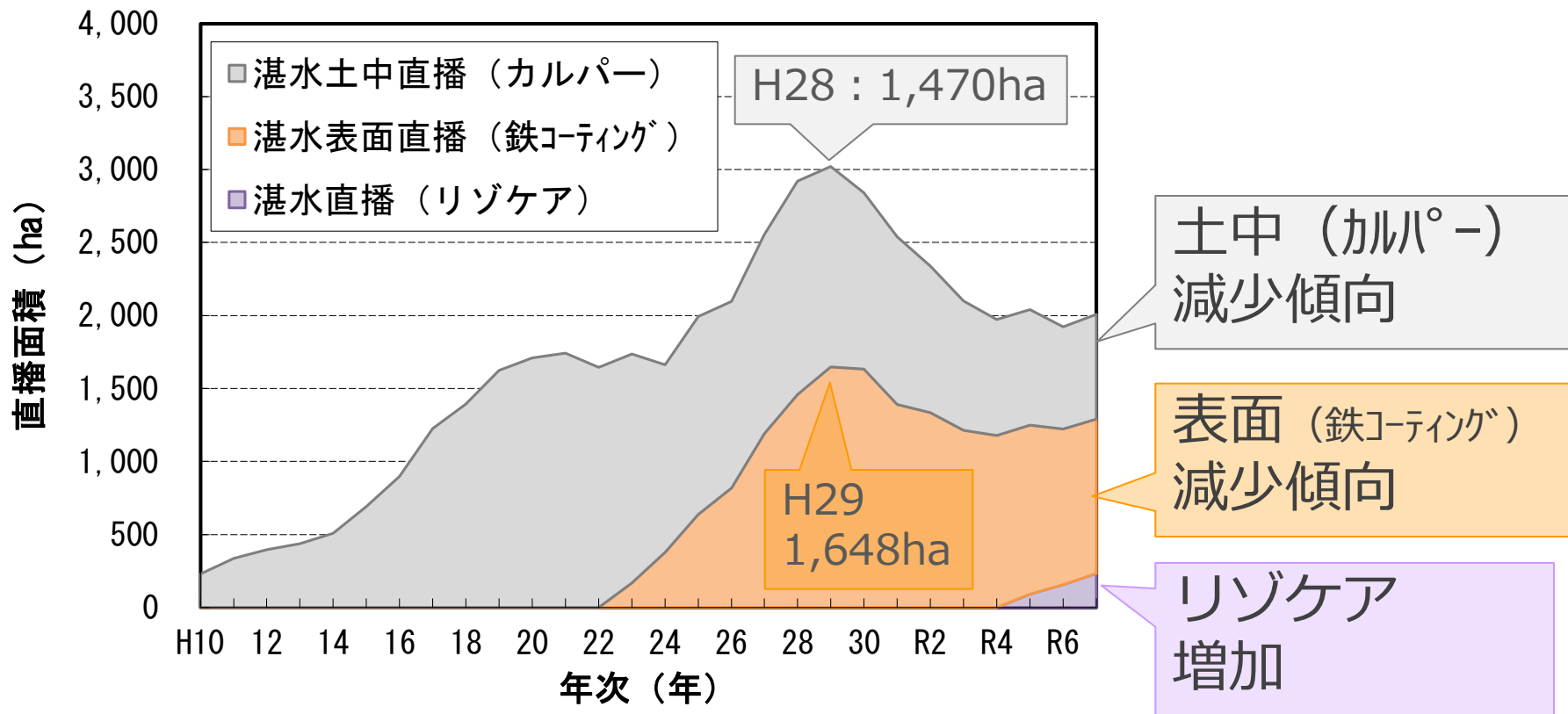


図 湛水直播栽培面積の推移

本日の内容

- 1 富山県における直播栽培の現状
- 2 湛水直播栽培の普及拡大に向けた
これまでの取組み
- 3 今後の取組方向

2 普及拡大に向けたこれまでの取組み

富山型直播：「コシヒカリ」を栽培

- ・省力栽培でも、高品質・良食味品種を
R7直播面積の約70%が「コシヒカリ」
- ・作期分散で「コシヒカリ」の作付けを拡大

移植：5/15 → 成熟期：9/12

播種：5/5～10 → 成熟期：9/19～22

→ 大面積で「コシヒカリ」の作付が可能 → 収益向上

- ・出穂後の高温を回避し、品質維持

播種：5/5～10

→ 出穂期：8/10～13

基白粒 背白粒 心白粒



2 普及拡大に向けたこれまでの取組み

富山型直播 「コシヒカリ」を栽培

課題は、倒伏の回避、苗立ち安定化、
収量確保、雑草防除など

生産者、JA、県（行政・研究・普及）が、
協力して、普及拡大を進める。

2 普及拡大に向けたこれまでの取組み

<研究>

- ・ 倒伏防止（基肥窒素量、播種量、適正生育量）
- ・ 播種様式（表面散播 → 土中条播・点播）
- ・ 栽培技術（肥効調節型肥料、初期病害虫）
- ・ 苗立向上（落水出芽法、加温処理、播種時の土壌硬度）
- ・ 雑草防除（効果、薬害、防除体系）

<普及>

- ・ 展示ほ、調査ほの設置（平成1桁代～）

2 普及拡大に向けたこれまでの取組み

<生産現場>

- ・ **コーティング種子の供給**

煩雑なコーティング作業を一括処理・供給

【カルパーコーティング直播】

JAでコーティング（加温処理も実施）

→近年、コーティング種子**供給中止が直播減少の一因**

【鉄コーティング直播】

委託を受けた営農組織でコーティング

- ・ **農閑期のコーティング作業**

鉄コーティング種子では長期保存が可能

→**作業分散が可能**

本日の内容

- 1 富山県における直播栽培の現状
- 2 湛水直播栽培の普及拡大に向けた
これまでの取組み
- 3 今後の取組方向

3 今後の取組方向

- ◎ 直播栽培は、省力的栽培技術として、
今後も推進（目標：4,000ha）
- ・ 経営規模の拡大、労働力不足により、
必要な苗の確保が困難（密苗でも）

【事例 1】 県東部・生産法人（76haうち水稻63ha）
種子生産は移植、主食用米はすべて加パ°-直播
6ha 57ha

【事例 2】 県西部・営農組合（50haうち水稻30ha）
早生（酒米）は移植、それ以外は鉄コーティング°直播
15ha 15ha

3 今後の取組方向（品種）

◎ 高温耐性品種での直播を推進

- ・ 近年、直播の生育ステージが早期化
→ 高温登熟回避の効果が得られにくい
- ・ 現在、高温耐性品種の作付拡大を推進
今後、直播栽培においても、
高温に強く、耐倒伏性も高い
「富富富」を推進



3 今後の取組方向（播種・栽培方法）

◎ 播種様式は特定せず、推進する。

【生産現場の状況】

① 播種機の更新時期

直播の意向調査（R1頃実施）

湛水直播では播種機の更新まで継続

→ 機械更新のタイミングで湛水直播を中止か

② 基盤整備によるほ場の大区画化

1 ha以上のほ場が増加

→ 作業効率が高い乾田直播が適している

※砂壤土地帯が多く減水深を抑えるため、秋代かき必要

3 今後の取組方向（播種・栽培方法）

◎ 湛水直播の拡大には**種子供給が重要**

【生産現場の状況】

① コーティング作業の中止

生産者、JAともに労働力不足のため、
カルパー、鉄コーティング作業や供給が困難
→ 湛水直播を断念する事例も

② リゾケア直播の拡大

コーティング種子を**農薬メーカーが供給**
(一部のJAで推進)

従来の播種機、ドローンで播種が可能

3 今後の取組方向（中山間地）

◎中山間地での水稻栽培は湛水直播（？）

【生産現場の状況】

①労働力不足に対応し、省力化が必要

【事例 3】 県西部の中山間地

人手不足で育苗作業が困難、直播で解消

②地理的に不利な地域での作付け

大区画ほ場への基盤整備が困難（乾田▲）

不整形、地が深いほ場が多い（乗用播種機▲）

→ ドローンによる播種が有望か

3 今後の取組方向（ドローン播種の課題）

<ドローンによる播種の課題>

【慣行の湛水直播】

- ・ 播種同時の施肥（肥効調節型肥料による側条施肥）
と、除草剤散布（湛水表面播種）が普及
→ 省力化技術が普及、生育も均一

【ドローン播種】

- ① 播種、施肥、除草剤散布を別々に作業
 - ② 播種・施肥むらによる生育のばらつき
 - ③ 表面散播による倒伏
- 開発された技術の現場試験での確認
（生産者、メーカー、JA、県が連携、協力）

3 今後の取組方向

「水稻生産の安定的な継続」や
「水田の多面的機能の維持」に向けて、
省力的な栽培技術「直播」を推進

